

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念「ほっとハウスのおひさまな暮らし」を玄関、事務所に掲示し共有できるようにしている。また、全体会議、内部研修、個人面談等の際に理念について確認している。	法人の理念に基づきグループホームで検討され「感謝の心」を共有されていました。入社式、毎月行われる会議で読み合わせを行い、全職員の周知共有に努めていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年に数回の行事を通して、保育園児、民生委員、ボランティアの方々と交流したり、福祉学校の生徒、高校生のボランティアも受け入れていましたが、コロナ対策で行事もなくなり、利用者の皆さんも残念がっていました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	「ミニ講座」を開いて欲しいと、地区の行事に参加した際、依頼があったがコロナウィルス感染対策のため、実現出来ていない。運営推進会議の際、市役所の方から事業説明の補足をして頂きグループホームへの理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回開催し、行政・区長・民生委員・利用者の代表家族が参加されて、施設の現状と、ご利用者の状況を説明させて頂いている。コロナウィルス感染対策のため開催見合わせもあり、文書でお知らせした回もある。	コロナ禍で、2か月に1回開催されていた運営推進会議の開催も困難になり、委員の皆さんには、ホームの現状や利用者の様子を「ホーム便り」でお知らせし、周知共有に努めていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議、介護認定調査、生活保護の方への面談等、行政の方が来所した際に事業所の日頃の様子を見て頂き、情報交換をしている。	市の担当課とは、介護認定調査や利用者との面談等で来所された際やこちらからの相談や報告で出向いた時に、話し合う機会があり、情報の共有と密な協力関係を築くことに努めていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修や勉強会を行い意識の共有化を図っている。身体拘束や言葉の拘束等を含めて日々お互いに注意し合っている。玄関の施錠はしない事を常とし、やむを得ない場合以外、スタッフとの連携の中で開放に努めている。	身体拘束や虐待に関する研修会が定期的開催され、全職員の周知徹底に努めていました。また、基準に基づいた組織としての仕組みが確立し、機能していました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連法については、全体会議でも勉強会を設けて意識を深め防止意識を高めている。実施例として、入浴時等、外傷がないかチェックし報告、原因究明に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度については、行政機関の行う説明会に参加し、理解を深めている。また、ご家族様が高齢となり、今後について不安の訴えがある為、成年後見制度がある事を伝え、行政に相談する事をお勧めしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には「利用するための契約」「身体拘束」等、契約書類を分けて分かりやすく説明出来るように配慮し、時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や各種行事の内容を盛り込んだ「ユニットたより」を毎月1回発行し配布している。ご家族の面会時や家族会、クリスマス会の際に内容についての評価・意見・要望を伺い、それを全体会議でも反映させています。	コロナ禍で家族との面会も制限される中で、家族の写真を利用者と一緒に見たり、ユニット便りで生活の様子を詳しく家族に伝えたり等の工夫がありました。	家族には、「たより」等で事業所の様子をお知らせしていますが、特に中途採用職員や異動が周知されていないと家族からの意見が聞かれました。意見が反映されることをお願いします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	平成28年度より人事考課を導入し、職員は年2回の自己評価をし、面談を行っている。個別面談、全体会議、ユニット会議等で意見が反映できる環境となっている。	人事考課制度の導入により、管理者は職員と年2回の個別面談を行い、職員個々の意見や困っていることの要望等を把握して、職員会議等で議題にするなど運営に反映させる取り組みがありました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事制度による賃金規定を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により、昇給、昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また、定年退職後の職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を活かした働き方も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月内部研修を行っている。研修テーマは、介護現場で必要な研修はもとより、当ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。外部研修も希望者は参加出来るよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	弊社別グループの事業所の職員と交流を図ったり、外部研修等で他事業所の方との意見交換を出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に、本人との面談を行い様子や性格等の把握に努め入所後1か月程は特に配慮をし様子を見守りながら関係性を構築し、気持ちを引き出せるように努め、情報共有化を図り、安全・安心に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方にも、今まで家庭ではどのような生活をされていたかを伺い、グループホームでの生活との違いをご理解頂き、家のような生活を継続できるように、本人や家族の不安や要望に添える関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に現状を十分にお伺いして、当ホームの説明と他の施設との違いを理解して頂き、状況により他の施設を紹介する事も考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	笑顔を絶やさず、利用者様主体で「おひさな暮らし」を合言葉として寄り添い、優しく支援をし、穏やかな暮らしが保てるよう、利用者との関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の「お便り」に利用者の日常の出来事や生活の様子をお知らせして、家族との一体感を失わないように努めている。コロナ禍で面会もままならないが、ガラス越しの面会や電話での会話をお勧めしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で外出にも制限があるが、毎月の行事や昔からの習わしを続け、会話の中に馴染みの生活の様子を話して頂く機会づくりを心掛けている。	コロナ禍で地域の方との関わりが難しい中、今まで行ってきた、干し柿づくり、奈良漬づくり等を行い、地域の方や馴染みの方の話をする活動を行っていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者仲間に合わせた席を考え、穏やかな交流が出来るように、雰囲気作りに努めてコミュニケーションが図れる関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設、他事業所へ入所された場合でもご家族にお会いする機会があれば失礼のないように様子を伺ったり、その後も相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室や入浴時等日常の会話の中で、ここでの生活の要望や意向、希望を丁寧に聞いて、意向に添えるようにしている。情報をカンファレンスに繋げている。	本人の想いを汲み取る為に、聞き取りや日常のしぐさ、会話をしっかり把握し計画に反映されていました。介護計画は家族に送り、確認し意見を書いて頂き計画に反映されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人の意向を大切に、家族や居室・サービス事業所と連携し、生活歴・サービス利用歴等を聞かせて頂き、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子を観察し、スタッフ同士の引継ぎを大切に現状の把握に努めている。毎月実施しているケース検討会で情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ユニットリーダーとスタッフは、利用者の日常の様子把握に努めて、ユニット会議で評価を行い、介護計画の見直し改善を図っている。本人、家族の意見がプランに反映出来ているかを面会時等に伺い同意を得ている。	スタッフは朝、利用者の様子を確認し健康状態、特に表情を確認しリーダーに報告していました。介護計画は、カンファレンスされ本人の様子が計画に反映されていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録やケアプランの実施記録には、日々の気づきを書き入れてスタッフ間で情報を共有し介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の面会や電話でのお問合せ時に、ご本人の希望や思いをお話し、希望等を取り入れるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治区の区長・民生委員の方々の協力を得て、地区公民館活動に参加し安全・安心な暮らしに協力を頂いている。保育園児との交流、地域の方からの野菜のおすそ分け等地域と利用者様の関係作りが出来ている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は入所時に、本人・家族に選択して頂き、適切な医療を受けられるように家族にも協力をお願いしている。また、職員も情報を共有して、受診後の様子をしっかりと伺いして必要に応じた対応をしている。	受診を希望する医療機関については、利用開始時に本人・家族の希望に沿うとされておりました。ほとんどの利用者が事業所の協力医を希望され往診を受けていました。	往診時の家族の立ち会いはないようでしたが、機会を作り、緊急時の対応がきちんとできるように、取り組みをお願いします。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医師の往診(月に1回)と毎週水曜日に看護師が勤務をしているので、その時には利用者の様子をお伝えして変化のある時には電話等で相談して対応方法を教わりながら必要に応じた介護をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やスタッフが面会に行ったり、ご家族に状況をお伺いしたり、医療機関と情報共有して利用者様が困らない関係作りが出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針について説明し同意を得ている。利用者様の状況に応じて、主治医・本人・家族と話し合いグループホームで出来る事を理解し納得して頂き看取りに取り組んでいる。	入所時に看取りの対応を書面で確認されていました。看取りが必要になった時、かかりつけ医、家族と相談し対応されていました。かかりつけ医は必要に応じ病院との連絡も行っていました。家族が看取りに参加できる設備もありました。	訪問看護等看護師の協力もあり、家族との連携もできていました。コロナ禍での対応には難しさもありますが、本人や家族の希望に沿った終末を迎えられる対応をお願いします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年間研修計画の中に急変時の対応・緊急時の対応について盛り込み勉強会を行っている。利用者の予測される急変についてはスタッフの中で情報共有を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の昼夜想定避難誘導訓練を実施している。今年は、地域の方を交えた消防署員による避難誘導訓練指導がコロナウイルス感染対策のため、6月実施予定が12月となっている。夜間想定訓練は9月に実施した	災害時の訓練、対応は実施され地域の協力も確認できました。また法人の職員アパートが隣にあり緊急時の協力ができていました。地域の災害時の受け入れも話し合いがされていきました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様が人生の先輩である事を忘れずに明るく和気あいあいとした生活の中でも厳格を大切に、一人ひとりの表情や目を見ながら丁寧に接することに心がけています。排泄や入浴時等プライバシーを損なわないよう、言葉かけに配慮している。	利用開始の説明に、同性介助が困難な場合があることを説明、承諾されていますが、入浴時は1対1の支援やタオルで体を覆うなど配慮されていました。同性介助が難しいときは了解を取られていました。	勤務体制でやむを得ず同性介助が困難な時は、一層プライバシー保護に配慮されるようお願いいたします。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けや会話を大切に、ご本人の意向を伺いながら希望があれば無理の無い範囲で対応する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	毎日の体調や様子を伺い、見守り、日々を穏やかに安心して過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替え等をご自分で選んで頂くようお願いし本人の意向を大切に、いつも清潔でいられるよう支援している。訪問理容にて希望のヘアスタイルにカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立には出来るだけ利用者様の希望を反映するようにしている。利用者様の力量に合わせて食事の準備や片づけを手伝って頂いている。自発的に手伝って下さる方もおり職員と一緒に楽しんで出来ている。	「食事は楽しむ」とスタッフは自覚をもって支援されていました。利用者のできることは自分でしていただき、過度の介助はされていません。食器の片付けも無理なく行ってもらっていました。	気分のムラがある時は、支援は無理しないとされていました。ご本人が役立っている、必要とされていると、より一層感じられる支援をお願いします。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの希望や状態に合わせて、食事の際に摂取量・水分量の確認をして、必要に応じてチェック表に記入をし、経過観察をして食形態や盛り付けにも工夫をしたり配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛け誘導し、口腔ケアに付き添い見守りながら実施して頂いている。なるべく本人の意志や意欲を取り入れたケアをしている。訪問歯科の受診相談も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を基に一人一人の排泄パターンを把握するように支援をしている。「出来るだけトイレで排泄を」を目標としてタイミングを見て声掛け誘導している。	排泄は介助されるのがつらいことでもあり、自立のために重点的に取り組まれていました。できるだけ自立できるようチェック表等活用されていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を利用し、便秘予防に食材の工夫をして牛乳、ヨーグルトを取り入れたり、適度な運動や歩行訓練を心掛け、必要に応じて医師に相談して下剤服用で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者様の希望を確認しながら、1週間に最低2回以上は入浴出来るようにし、健康状態や精神的な面も見極めて入浴支援をしている。	入浴を拒む利用者が多いが、最低週2回は入浴できるよう支援し、気持ちよく過ごせるように配慮されていました。排泄の失敗時はシャワー浴等行っていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夕食後の就寝時間は自由で一人ひとりの思いで居室に戻り休まれる。一人ひとりの睡眠時間に合わせて、室温や寝具の調整をするように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬係を主に、スタッフが薬の変更や服薬について情報を共有化し理解するために、申し送りノートを活用したり誤薬の無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一日を通して食器拭きや洗濯ものを干す、畳む等それぞれの役割を持って生活出来るように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍でも出来る事を探し、利用者様の要望に合わせて外出の機会を作り、ぶどう狩りに行ってきた。また、外食が出来ないため、法人の食事部門から出張デリバリーにて、「握り寿司の日」「餃子の日」職員による「ラーメンの日」を設け、外食気分を味わって頂いた。	コロナ禍ですが感染予防に気を配りながら、利用者の楽しみな外出を検討し提供されていました。施設内で楽しめる工夫もされていました。家族との交流も感染に注意しながら行われていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族よりお小遣いとして持って来て頂いている。お小遣いは基本的に施設で預かり、本人・家族の希望で使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話したいという希望があれば、自由に電話が出来るようにしている。年末には年賀状を職員と一緒に書いて頂くようにしている。昨年末はご本人の写真を付けた年賀状を出した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天気の良い日には、中庭に出て外気浴をしたり、余暇活動で作った作品をホールの壁を中心に飾ったり、季節に合った装飾を行っている。空調関係は利用者様に合わせて部屋の温度や明るさ等に気を配っている。また、換気にも気を使っている。	今回、感染予防のため施設内の見学は十分できませんでしたが、換気や明るさには特に注意を払い、利用者に快適な空間の提供をしていました。玄関から廊下には作品や花が飾られていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの居室では、一人になれる空間を提供して、ホールでは馴染みの関係が出来るように、食事の席を配慮し、思いを伺って楽しい雰囲気作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、入居前の生活の継続性を大切に、馴染みのある家具・写真・置物・趣味の物等を持ち込み自由に配慮している。	入所時に、今まで慣れ親しんだ生活が継続できるように、食器なども持ち込みができ、中には御位牌を持参されている方もいるとのことでした。今までの生活を大切にする支援がされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共有スペースにはなるべく障害物を置かないようにして、自室の入り口にはご本人の書いた絵や写真で分かりやすい工夫をし、トイレ・浴室には大きな字で明記している。		